



— (宝永四年) 一七〇七 貝原益軒書 —

岡田宮

◀ 岡田宮夏越祭 ごあんない ▶

第 47 号
 平成21年7月吉日
 発行 岡田宮社務所
 北九州市八幡西区岡田町1番1号
 郵便番号 806-0033
 電話 (093) 621-1898
 FAX (093) 621-5330
 URL <http://www.okadagu.jp/>
 E-mail okadajinje@jcom.home.ne.jp

目次

夏越祭ごあんない	—	1
総代会研修旅行(筑豊田川市伊田)	—	2
郷土地名考 47	—	2
伊勢神宮御奉賛のお願い	—	3
神社なぜなぜ問答 47	—	3
七五三	—	4

平成二十一年七月二十九日(水) 午後六時~九時
 (雨天決行)

社頭に設けた茅の輪をくぐれば、悪疫を免れ幸福と繁栄を招来するという古式に則った夏越祭を厳修いたします。

大祓神事 午後六時より

どなたでも参加できます。

参列の方には大祓詞をさしあげます。

ふるってご参加ください。

当日ご参拝の方に

■「お札」と「茅」を授与いたします。

魔除けとして玄関に奉斎して下さい。

■無病息災・除災招福御神酒接待

ご参拝の方に御神酒をご奉仕いたします。

■総当たり福引き・かき氷

地元青年会の屋台がたちます。

いづれも一回100円

■アニメ上映

無料券

当日この券をご持参ください
 福引き・かき氷のいづれか
 1回が無料になります。



総代会研修旅行より

筑豊田川市伊田

鎮座風治八幡宮参拝と

「黒ダイヤ」の栄光

を訪ねて

「月がく出た出た月が出た」でおなじみ炭坑節発祥の地、かつての筑豊のシンボル、三井鉱山、伊田の堅坑の巨大な二本煙突を真近に眺める風治八幡宮を参拝し、その後、石炭産業の遺産、炭坑資料館見学の旅を企画して、三月十日、早朝八時半、岡田宮東参道を出発。一路国道二百号線を、筑豊方面を目ざし進みます。先ずは、飯塚が発祥で今や東京方面にまで展開の、銘菓ひよ子の工場を見学。工場内の甘い香りと、次から次へとベルトコンベアで流れる、可愛いひよ子饅頭に一同は、興味深く見入っていました。熱いお茶と試食のサーブスを受けて出発。この日の一番の目的、風治八幡へと向います。

代会長が玉串を捧げ、一同それに合わせて、参拝しました。社務所にて宇都宮宮司様より、神社の御由緒や、筑豊随一の賑いを見せるという「川渡り神幸祭」の説明をいただきました。この神社は、放火による二度の火災に遭っており、御社殿は焼失しました。その後、伊勢の神宮より、前回の御遷宮の折り、別宮の一つをお下渡しいただき、御本殿として再建され、立派に復興を遂げていました。参拝の後は、直会を兼ねての楽しい昼食です。近くの料亭「あおぎり」に向い、この店の名物のくじら料理をメインのコースに舌鼓を打ちました。この料亭は、かつての黒ダイヤ景気をしたのばせる風格のある建物で、なつかしい鯨肉の味に、一同は満足の模様でした。



へ。途中、直方の「もち吉」本社のもちだんご村」に立ち寄り、しばしのお買物タイム。再び車上の人となり、午後五時頃、無事岡田宮東参道へ帰着しました。今回も有意義な旅行が出来て、関係者一同、深く感謝いたしております。風治八幡宮宇都宮宮司様始め御社の皆様には、厚くおもてなしいただき、心より御礼申し上げます。

白山 (はくさん)

白山神社は渡来型信仰。朝鮮の霊峰五山を五鎮山といい、北鎮の長白山はもつとも霊験あらたかたで、製革業者の守護神として知られている。秀吉の朝鮮出兵のときに連れ帰った技術者とともに渡米した説もあるが、近世以前はシロヤマ。全国に広がっている。

若松には白山町の白山神社のほか、藤の木、小竹にもある。白山町の神社は一六二九年(寛永六)藤の木から勧請、あわせて白山三神。白山権現は戸畑をのぞく各区に一社ずつあるが町名になっているのは若松だけ。

郷土地名考 ④



伊勢神宮御奉賛のお願い

氏子崇敬者各位

伊勢神宮の第六十二回式年遷宮が平成二十五年十月におこなわれます。神宮式年遷宮は二十一年に一度古式のままに社殿を新造し、御装束・神宝も新しく調え、大御神に新殿へお遷りを仰ぐ行事であります。千三百年の永い歴史と伝統を有し、日本建築の原型を今に伝え、日本古来の伝統・文化・技術の伝承を可能とする極めて文化的意義が高いものであります。

今回、御遷宮には五百五十億円の諸経費が必要となりますが、この内三百三十億円は神宮において準備され、残りの二百二十億円を前回に倣い、経済界、神社界等によって各県にて財団法人伊勢神宮式年遷宮奉賛会本部を設立し、広く国民の皆様から募金をお願いすることになりました。福岡県の募金目標は五億円、岡田神社の募金目標は二百万円となっております。

何卒、神宮の第六十二回式年遷宮が、国民総奉賛によりまして美しく斎行されますよう、皆様方の御支援・御協力をお願い申し上げます。

岡田神社宮司 波多野直之

神社責任役員 梶原章旺 岡石実夫 片田一夫

菊竹常吉 森 肇 望月康治

奉賛金額 一口 千円(何口でも結構です)

奉賛者に対する待遇

一口 参宮章 絵葉書

十口 参宮章 扇子

百口 参宮章 感謝状 卓布

奉祝祭案内状(平成二十五年十月)

岡田神社目標金額

二百万円

納金方法

岡田神社に持参

神社
なぜ
なぜ
問答

(その47)

「七五三参り」について

教えて下さい。

十一月十五日の晴れ着で着飾った子供が神社に参詣することを七五三詣などと称し、神様に今まで無事に過ごしてきたことに感謝し、今後も健やかに成長することを祈ります。

この行事については、三歳の男女の場合の髪置(かみおき)といって、頭髪を伸ばし始めることを、五歳の男子の場合は袴着(はかまぎ)といって初めて袴を着用することを、また七歳の女子の場合には帯解(おびとき)といって幼児用の紐を解き大人と同じ帯を用いることを表し、子供の成長を社会的に認知するためにおこなわれてきた通過儀礼を起源としています。

江戸時代中頃から商業の発達による影響もあり、都市部において現在のような華やかな風習となりました。七・五・三という歳の数については、これが縁起のよい陽数であることに結びついたものであり、また十一月十五日の日取りについては、天和元年(二六八一)のこの日に、五代将

軍徳川綱吉の子息徳松の髪置祝いがおこなわれたことを前例にするとともに伝えられ、暦学の上でも吉日に当るそうです。

神社への参詣は江戸時代にもおこなわれましたが、明治以降はさらに盛んとなりました。これは子供が七歳のお祝いで氏神様に参詣したとき、神社から氏子札が渡され、正式に氏子の仲間入りができるようになったことからです。よく「七つまでは神の子」といいますが、この時から一人前の人格として扱われるようになったのです。

地域によってはお祝いの子供が神祭りで重要な役割を果たしたり、正月や例祭日に神社に参詣したりなど風習もさまざまですが、親が子供の成長を願う気持ちには変わりはありません。



七五三

七五三祭は、子供の成長にともない節目々々に神社にお参りして、いつそその息災成長を祈る行事です。

三歳の男子女子の祝いを髪置、五歳の男子の祝いを袴着七歳の女子の祝いを帯解きなどと称しますが、これらの名称や、その年齢は地方により、時代によつて必ずしも一定しません。ともあれ、七五三は江戸時代から、広く行われた行事で岡田宮では、十一月十五日を当日とし、その前後を通じてにぎやかなお参りが行われます。

なお、平成二十一年の七五三の年齢は、左記のとおりです。ので、ご家族おそろいでお参り下さい。

記

- 三歳 平成十九年生 (かぞえ齢) 平成十八年生 (満年齢)
 - 五歳 平成十七年生 (かぞえ齢) 平成十六年生 (満年齢)
 - 七歳 平成十五年生 (かぞえ齢) 平成十四年生 (満年齢)
- ※年齢はかぞえ年でも、満年齢でもかまいません。
※毎日午前九時より午後五時まで受付をしています。



気功教室のご案内

現在、老若男女15名でわきあいあいと気功をしております。一緒に元気で充実した日々をおくるために、体験・参加下さいませんか。

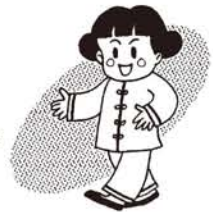
効能

体質改善、肩こりの解消、更年期障害の改善、脳を活性化して老化防止、ストレス解消、生活習慣病の改善ほか

◆健康雑誌“壮快”でおなじみのネネ先生の指導です。

日時：毎週土曜日17時～18時半

場所：岡田神社会館和室



連絡・その他は：九州気功協会 古屋ネネ ☎093-371-0521、山内 ☎093-622-8230

有川 写真館

八幡西区岡田町1-44-3F TEL 0120-62-2080
本店を黒崎鎮守の森 岡田宮烏居横 尾畑ビル3階に移転いたしました

岡田宮スタジオ (境内)

0120-620-753

神社挙式プラン

(挙式料・衣装・写真3ポーズ2冊) 200,000円

宮参り・七五三・入園・入学など

(お子様の衣装・着付け・ヘアメイク無料)

レンタルお出かけ衣装

1着 ￥5,000～ (お子様に限りです)

撮影料金

四切 1ポーズ 1枚…… ￥10,500

四切 2ポーズ 2枚…… ￥21,000

四切 3ポーズ 3枚…… ￥27,000